



体外診断用医薬品

クラスⅢ免疫組織学検査用シリーズ  
**ヒストファイン SAB-PO(M) キット**  
ビメンチン

第一抗体  
**抗ビメンチンモノクローナル抗体(ヒストステイナー用)**  
(動物種：マウス)

包装： 60テスト(12mL) Code：722101

製造販売元

**株式会社ニチレイバイオサイエンス**

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

- 本品は、クラスⅢ免疫組織学検査用シリーズ ヒストファイン SAB-PO(M)キットの構成試薬 第一抗体であり、自動染色装置ヒストステイナー用試薬である。
  - 本品を使用する際は、ヒストファイン SAB-PO(M)キット(ヒストステイナー用)の添付文書をよく読んで使用すること。
  - \*■ヒストファイン SAB-PO(M)キット(ヒストステイナー用)の各構成試薬は、第一抗体(本品)を除き販売していないので、別売りの「ヒストファイン SAB-PO(M)キット(Code: 424021 または Code: 424022)」 「ヒストファイン DAB 基質キット(ヒストステイナー用) (Code: 725191)」と組合わせて使用すること。
  - 特異性および抗原分布：ヒト組織中の 57kDa のビメンチンと特異的に反応する。グリア線維性酸性プロテインやデスミンとは反応しない。内皮細胞、線維芽細胞および平滑筋細胞など多種の間葉系細胞と反応する。悪性線維性組織球腫などの軟部腫瘍組織には、ビメンチン以外の中間フィラメントは存在しない。
  - クローン名：V9
  - 抗体のサブクラス：IgG1、 $\kappa$
  - 免疫原：ブタの目のレンズから精製したビメンチン。
  - 製法：ハイブリドーマの培養上清より得ている。
1. 内容  
第一抗体・・・抗ビメンチンモノクローナル抗体(動物種：マウス)。  
液状。  
ウシ血清アルブミン(BSA)と0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。  
1バイアル中に12mLを含む。
  2. 使用目的  
組織、細胞中のビメンチンの染色。
  3. 切片の準備  
前処理(抗原賦活化)は必要ない。  
■参考：組織の固定状況等により10mMクエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたマイクロウェーブ処理をすることで、より良好な染色結果が得られる場合がある(裏面の■参考参照)。
  4. 使用方法  
パラフィン包埋切片の免疫組織化学および免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。  
1) 他の試薬とともにヒストステイナーにセットし、染色を開始する。  
2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。
  5. 染色方法の設定  
反応時間を30分間とする。
  6. 貯法  
2-8℃保存。

## 7. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	抗ヒトマンチネノコロン抗体
試薬略称(10文字)	VIM-MM
バーコード	VIM-MM
時間(分)	30

## 8. 主要文献

- (1) Gabbiani, G. et al: Am. J. Pathol. 104: 206, 1981
- (2) Denk, H. et al: Am. J. Pathol. 110: 193, 1983
- (3) Miettinen, M. et al: Arch. Dermatol. 121: 736, 1985
- (4) Osborn, et al: J. Cell. Biol. 34: 137, 1984
- (5) Azumi, et al: Am. J. Pathol. 88: 286, 1987
- (6) Buley, et al: J. Clin. Pathol. 40: 136, 1987

■参考：10mMクエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたマイクロウェーブ処理の場合(おもて面の■参考参照)

[切片の準備]

1. 50℃で十分に湯伸ばしした切片(3-4μm厚)をシランなどのコーティングスライド上に張り付け、37℃の恒温器内で16時間以上乾燥させる。
2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS
3. 前処理(抗原賦活化)：マイクロウェーブ(MW(500W))処理
  - ①緩衝液(下記記載)をバットに入れ、MW照射し沸騰させる。
  - ②沸騰した緩衝液に切片を浸し、MWを5分間照射する。
  - ③バットごと切片を常温(15-25℃)に20分間以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。  
※MW処理後は、バットおよび緩衝液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
  - ④スライドを緩衝液から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ピンを使用する)。

### ・ 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)の作り方

A液9mL+B液41mL+精製水450mL

A液：0.1M クエン酸水溶液

クエン酸一水和物(C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>O<sub>7</sub>・H<sub>2</sub>O)2.1g/精製水 100mL

B液：0.1M クエン酸ナトリウム水溶液

クエン酸三ナトリウム二水和物(C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>O<sub>7</sub>Na<sub>3</sub>・2H<sub>2</sub>O)14.7g/精製水 500mL

A液、B液は常温で保存可能である。ここから必要な時に調製する。